

みちの会だより

会長挨拶

渡邊 順子

「梅花耐風雪 到時放雅香」にピッタリの明るい春が到来いたしました。
今年度、大役をお受けいたしまして、活動を推進する中で心を合わせることの素晴らしさを改めて認識しました。また、行事開催日を迎えますまでの過程を十分に楽しませていただきました。しかし、会員のお一人、お一人がそれぞれのお立場で輝いておられますが、多忙となり、時間とお気持ちを会の活動に向ける困難も生じています。

このことは表裏一体のことと思います。親しくお話をさせていただきますと素晴らしい方達ばかりで、同じ会のお仲間であることを嬉しく思います。

本欄の終わりにあたりまして、私が日頃修練の教えとして心がけております言葉を三つご紹介いたします。

それは「健康・友好・和平」です。

- ☆ 健康・・・自分だけ願わず、他人様もともに
- ☆ 友好・・・友と仲良く、支え支えられて
- ☆ 和平・・・心の和を輪につなげて

一年間温かな時間を過ごさせていただきまして、心より感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

も	*	会長あいさつ	-----	表紙
	*	男女共同参画チャレンジ支援事業成果報告会より	-----	P 2～3
く	*	ウィルあいち公開講座から	-----	P 4
	*	ブロックの一年・2005年度役員紹介	-----	P 5
じ	*	クローズアップ「NPO 法人はっぴーねっと」	-----	P 6
	*	それぞれが学んだ全体学習会	-----	P 7

リポ—ト

男女共同参画チャレンジ支援事業成果報告会
平成17年1月14日(金)
於： ウィルあいち

常滑市 伊藤 あさ子

1月14日(金)ウィルあいちに於いて、今年度の県支援事業の成果報告会が行われた。

発表したのは、県から委託された「国際交流はなのき会」「NPO法人ウィン女性企画」「農村輝きネット・南新」の3団体で、コーディネーターには日本福祉大の後藤澄江教授があたられた。

「国際交流はなのき会」は、「グローバル共同参画講座：地球社会にチャレンジ」と銘打って、国際的に活躍中の大学教授による国際理解講座・地球規模での経済格差や食糧事情を疑似体験で学ぶワークショップからなる連続講座を、県内3地区で開催「女性として持続可能な国際貢献とは」をテーマに国際フォーラムを開催したことを発表。

時代のニーズにあったテーマを選択できたことで、現状を知りえたこと、そして、この事業を行う為の道程の意義深さを痛感した。これからも持続可能な活動に結び付けたいと述べられた。

「NPO法人ウィン女性企画」の発表は、「レッツチャレンジ!はじめの一步～多様なキャリアが社会を変える～」と銘打って、多様な能力やキャリアを持ちながら、育児・介護や夫の転勤などで社会との接点を一旦中断された女性を対象に、再チャレンジと多様なキャリアの実現を支援するための地域フォーラムや宿泊研修などを開催。

公的機関などに置かれてあるチラシはなかなか読まれにくいと、小児科や美容院などの待合室などに置いてみた。

反省点として、対象者を女性に絞ったこと。35才から40才の均等法世代はパソコン入力ができなくてはチャレンジできない。パソコン講座を持つべきだった。子供を遊ばせてくれる場所も必要だったなど。

「農村輝きネット・南新」の発表は、「女性農業者の立場から、『食と農』の発信事業」の取組として、「食と農のフェスティバル～女性農業者のチャレンジ～」・男性の家庭参画へのチャレンジを目的とした「自立のための料理体験教室」を開催。異質の方に聞いていただきたくて市・町の広報を用いたが集客が難しく、他のイベントとの兼ね合い、農繁期に開催したことなど問題点は残った。

また、時間の配分のミス(おにぎりを食べたら講演を聞かずに帰ってしまったなど)もあったが、子供達や団地の住人に農村文化を伝えることができたと思う。とも述べられた。いずれの団体も人集めの難しさを語られ、今後の大きな課題かと思った。



先日、「男女共同参画チャレンジ支援事業」で委託された3団体による成果報告会が「ウィルあいち」で行われました。

委託された団体は「国際交流はなのき会」「特定非営利活動法人ウィン女性企画」「農村輝きネット・南新」の3団体です。

それぞれの団体の方の企画・運営・成果等、ご苦勞や反省点をまじえての発表をお聞きしました。お聞きして感じたことは、それぞれの地域性や団体の持ち味を生かした事業を展開されている事です。

「はなのき会」は「グローバル共同参画講座：地球社会にチャレンジ」と銘打って三講座からなる事業を展開しました。また、会場も第一講座、第二講座は愛知県下3地域で設定し、各地域の会員と連携して事業を進め、第三講座は合同で「ウィルあいち」で行うという設定で進められました。

対象者を国際社会に関心をもち、社会参画に意欲のある女性とし、それに相応した講座内容で延べ250名の参加者を集められました。代表の方が事業を実施した結果として「現在の変化の多い国際社会の中で、これから益々このような働きかけが必要である。又、これからの若い人達の反応があったので継続してゆく意義がある」と結んでみえました。会としては地域会員との連携を深め人を集める時には、地域会員のネットワークが大いに役立ったと評価してみえました。



「ウィン女性企画」は「レッツチャレンジ！はじめの一步～多様なキャリアが社会を変える～」と銘打ち多様な能力やキャリアを持ちながら育児・介護・夫の転勤で社会との接点を一旦中断された女性を対象に、再チャレンジと多様なキャリアの実現を支援する講座を企画運営されました。

ステップ1は地域フォーラム、ステップ2は宿泊研修、ステップ3はフォローアップと段階を踏み、自分自身の能力の再確認から再チャレンジへと、参加者一人ひとりにあったきめ細かい事業が展開されたようです。参加人数は少なくとも、参加者の再チャレンジへの後押しが出来たという確かな手応えが、発表者の言葉から感じられました。

私たちは何かをする時、出来るだけ多数の人に、と思いがちですが、確かな一人にも又、大切なことであると痛感しました。

「南新」は「女性農業者の立場から、《食と農》の発信事業」とし女性農業者の新たなチャレンジと男性の家庭参画という二本立てで男女共同参画社会実現に向けての事業を展開しました。

「父と子の料理教室」では男性に働きかけ、「食と農のフェスティバル」では女性農業者の経営管理などの能力発揮を呼びかけるという企画運営をしました。これこそ地域に根ざした内容で、これからの農村のあり方を感じさせる発表でした。

又、代表の方が言ってみえた「ことさら男女共同参画という言葉は前面に出さなくても関心のある事は少しずつ広がってゆく」と言ってみえたことです。現代の農業を考える時女性の果たす役割が非常に重要であるという自信と、女性が表に出る意義を充分分かってみえるからこそその言葉だと思いました。

男女共同参画社会に向けていろいろな取組みの仕方があること、そして、地道な取組みこそが、息の長い活動につながることを教えて頂いた成果報告会でした。



男女共同参画社会へ

～どこまで進みましたか？～

昭和女子大学女性文化研究所長

ハーバード大学客員研究員 坂東眞理子氏

「男女共同参画社会へ」 坂東眞理子さんから学んだこと

大府市 山本幸子

坂東さんは、男女共同参画社会はどこまで進んだか話された。

まず、戦後、男女平等（憲法14条）、男女共学（教育基本法5条）と法が整備され、それまで制限されてきた女子の教育機会が広がった。学歴が高く、知識や技術のある意欲をもった人が増えて、女性が、多様な生き方を選択できるようになったのは画期的なことだった。

次に、20代の女性たちの晩婚化に加え、結婚している夫婦が持つ子供の数が減って、少子化が進んでいること。その原因に、子供を持ってかかる目に見えないコストに、妻が正社員のまま働き続けたら手にすることができる賃金をあげられたのは興味深かった。

そして、内閣府が今年2月に行った男女共同参画について最新の世論調査の結果を紹介された。「夫は外で働き、妻は家庭を守べきである」で初めて反対意見（48.9%）が賛成意見（45.2%）を上回った。

「仕事と家庭生活や地域活動への係わり方～望ましいと思う姿と現状」では、「女性も男性も望ましい姿」は「両立」が「現状」を上回った。固定的性別役割分担意識は希薄になってきたといえる。

調査では、男性の仕事と家庭を両立させるべきだという意識も決して低くない。にもかかわらず、日本では、男性の長時間労働が男性の家庭や育児への参加を阻んでいて、その分、女性にかかる家事や育児の負担が大きく、女性が仕事をしながら子育てする環境が十分とはいえない。

次世代育成支援対策推進法が今年4月から施行され、「子育てには男女が協力して行なうべきもの」で「男性を含めた働き方の見直し」や「地域における子育て支援」を強化して、国は少子化に歯止めをかけようとしている。男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援が進んでいることがわかった。

最後に、会場の質問に答えて下さった。

そこに、私たちが活動していく上での示唆があったと思う。今や企業でもダイバーシティ（多様性）が求められているので、女性を活用した方が企業にとっては得だと示すことが有効であること。

同性だけの職場は環境の変化に適應できないリスクがあり、男性にも人間的な暮らしが必要であり、ハッピーな職場には有能な人材が集まるといった具合だ。

男女共同参画社会は、性別にかかわらず誰もが対等に参画できる社会であるはずだが一部では『ジェンダーフリー』を曲解し“行き過ぎだ”をわざわざつけ加えて、男女共同参画に反発が起きている。

私はこの点が非常に気がかりだった。「誤解には冷静に繰り返し答えていくしかないのです。」確かに女だから・男だからで差別や抑圧するのではなく、その人らしさ・個性を尊重する男女共同参画はこれからますます広がるはずだ。「チャンスが与えられても女性の定着率が悪いのはなぜか？」という問いに、「たくさん女性を採用すれば残る女性も多いです。今は男性も辞めるようになって個人差が大きい。」と、答えは明快だった。

私たち自身が男女で二分する発想を粘り強く見直していかなければならないと、しみじみ思った。

ブロックの 一年

全体活動が主体であったなか、ブロック・地域での活動について聞いてみました。

☆ Cブロック

東海市地域開発みちの会では、昨年引き続き今年度も紙芝居の公演を通して、男女共同参画社会の啓発活動を行いました。

公演したのは、市内5校の小学校と子育てのイベント「ハッピーフェスタ」の1回です。小学校では4年生(50～90名)を対象に紙芝居「家族の役割」と「ねえ おしえて」を見た後に、感想を聞いたり、質問に答えてもらったりしながら45分間、楽しい時間を持つことができました。

子供たちには紙芝居を通して、私達の意図が確実に伝わり、大変勇気づけてくれました。

そして男女共同参画の啓発は子供の時から行うことの大切さを痛感し、来年度も出来る限り活動えお続けたいと思います。

東海市 青木 幸子

☆ Dブロック

入会と同時に幹事になり、またブロック長となり、私自身の力量不足も重なってブロックの皆様には大変にご迷惑をかけた一年でした。

でも、私にとってブロック会議は「みちの会」を知るうえで、とても貴重な会議でした。会議において先輩の活動体験をお聞きすることは、何も分からない私にとって意味深いものでありブロックとしての意見集約を図る上での指針となりました。

「温故知新」ものの成り立ちを知ることは、新しいことに向かう時、とても役に立ちます。文字通り私にとって「ブロック会議」は、この言葉の意味を実感できる会議でした。

時代の変化が著しい今日こそ物の成り立ちに帰り、その上で新しいものを構築することが大切ではないでしょうか。

ブロック会議の位置付けから逸脱しているかも知れませんが、ブロックという規模で意見を戦わすことは、これからの「みちの会」にとってとても有意義ではないでしょうか？

大府市 酒井 信子

2005年度みちの会役員紹介

【役員】	油田 淑子 (名古屋市)	戸田 幸子 (東浦町)
	林 八千代 (名古屋市)	吉住まり子 (阿久比町)
	鈴木多恵子 (名古屋市)	鈴木 良子 (武豊町)
	山本 隆子 (東海市)	斉藤 悦子 (美浜町)
	山本 伸子 (知多市)	鈴木美智子 (南知多町)
	酒井 信子 (大府市)	
	加藤 美幸 (半田市)	
	山中 和子 (常滑市)	どうぞよろしく申し上げます



クローズアップ

NPO法人はっぴーねっと

理事長 小林 治代 (東海市)

私たち「NPO法人はっぴーねっと」は、子供も大人も共に育つ環境づくりをすすめるために、まちづくり事業や市民の自己実現し合う共助関係に貢献することを目的にするNPO法人です。

いろいろな事業をしながら、人々のネットワークを築き「人々がそれぞれ豊かなまちをつくる」これが私たち「NPO法人はっぴーねっと」の目標です。

事業をすすめながら、親自身が人間関係を豊かにし子供とともに育つことが、子供の発達につながり、そして、さらにまちの発展につながって行きます。

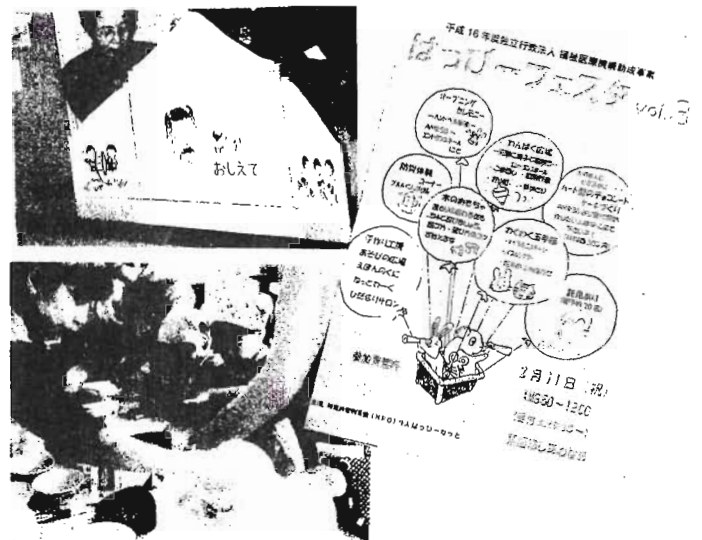
性(女性・男性)、世代(大人・子供)、セクター(行政・民間・企業)、NPO間を越えて人々が関わり合う中で、人々を必要と思う人々たちと協力しようと思う人たちが

「できること」を話し合い・出し合い共に事業を行い、さまざまな人々と人が係わる事業を通して「人々のつながりを大切にする社会」「・・・だからと諦めることなく潜在能力を発揮する(エンパワーメント)できる社会」、そんな人々が豊かに暮らせる社会をめざしていきたくて思っています。――

16年度 主な事業

- * 第3回はっぴーフェスタ開催
- * 子育て防災フェスタ開催
- * 「子育て防災ハンドブック」作成
1000部発行
- * れんげ摘みピクニック
- * 子育てサロン事業(東海市より委託)
市内2ヵ所の公民館
- * 子育て情報誌「あっぷっPuII」
1000部発行
- * 県・みんなで子育て推進モデル事業
冊子「相談できるんです」作成
- * 子育て支援総合コーディネート事業
委託
- * 東海市「子育てフェア」参加
- * 愛知県「子育てフェスタ」参加

その他 各種事業にも参加



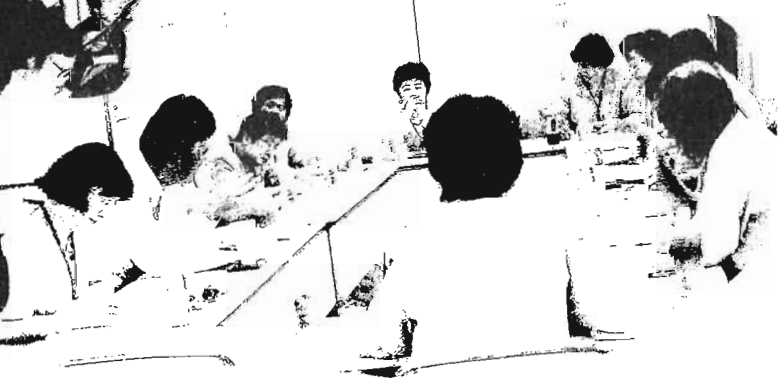
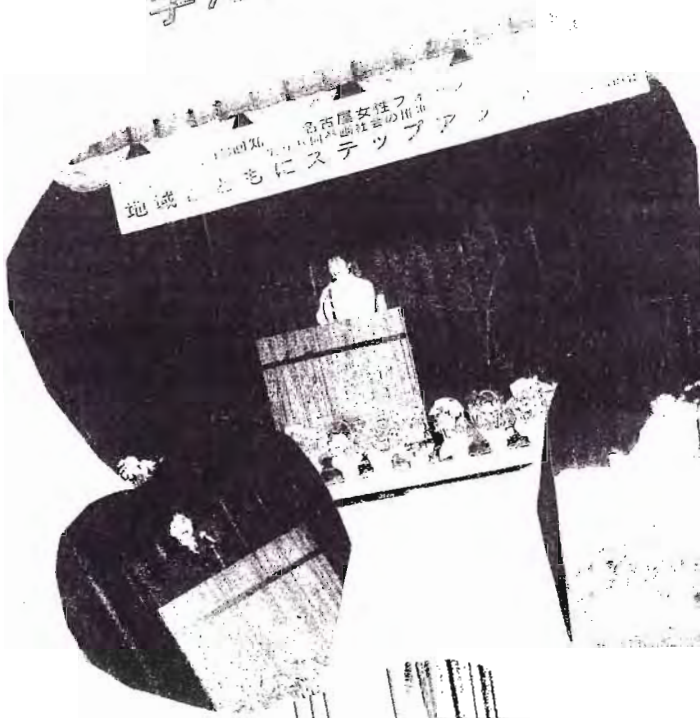
編集後記

全体活動が中心の一年でしたが、お忙しいなか沢山の皆様にご参加いただき、どれも活気のある盛り上がった学習会であったと思います。そんな活発な学習会の内容を充分お伝えできなかったかも知れませんが、何よりも皆様の生き生きとした表情がとても印象的な一年でした。

原稿依頼を快くお引き受け下さった皆様
心からお礼を申し上げます。
一年間ありがとうございました。

T/F 0569-48-0610 吉住
T/F 0569-65-2962 石黒

それぞれが 全体学習会
学んだ



みちの会だより35号
発行：地域開発みちの会
発行年月日：平成17年3月31日
発行責任者：会長 渡邊順子
編集委員：吉住まり子・石黒ひろみ
問合せ先：渡邊順子
〒470-2212 阿久比町卯坂焼山86
☎0569-48-4788